

に降る

小野耕石、滝澤徹也、中谷ミチコ、浜口陽三

2019.10.5(土) - 12.22(日)

展覧会概要

「一番大切なことは目に見えない」とは、小説『星の王子様』に出てくる一節です。本展では、はっきり形をとらない大切なものを、手のひらにさぐり、凹凸のあわいを模索する三人の現代作家を、浜口陽三の銅版画作品と併せて紹介します。

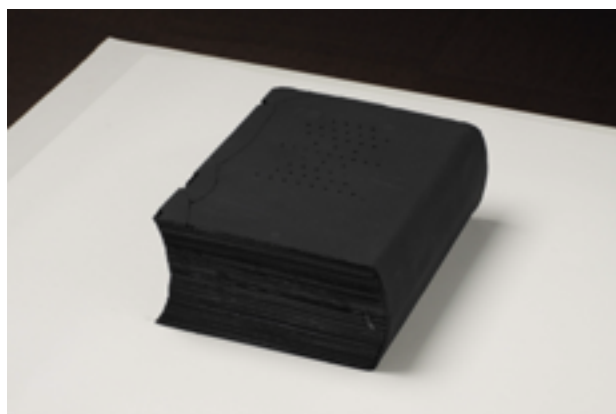
版画の一技法、スクリーンプリントを 100 回程度刷り重ね、観念的な立体版画を作り上げる小野耕石。

蜘蛛の巣や北欧の岩石を刷りとり、時や歴史^{かたど}を象る滝澤徹也。石膏の雌型に樹脂を流し、彩色して、心の結晶を幻影として見せる中谷ミチコ。

東京美術学校の彫塑科を中退してフランスに渡った浜口陽三は、20 世紀後半に、銅の板を限りなく細かく刻むメゾチントという技法に辿りつきました。彫ることで生まれる浜口の柔らかな作品世界と共に、とらえられないものを求め、その触感を実在化するように表現へ深くもぐりこむ、現代の静かな心の象形をご鑑賞ください。



B 滝澤徹也《蜘蛛の巣》2003年 リトグラフ
和紙・油性インク（和紙を作る過程で出たアクから作ったインク）・他 約120×90cm



A 小野耕石《この本が知的要素のみで成り立った今それは美と芸の学術として成立した純粋に絵を描く事を失ったものである。》
2004年 スクリーンプリント 油性インクと顔料 24×18×9cm



D 浜口陽三《さくらんぼとアスパラガス》1973年
カラーメゾチント、紙 24.1×24.4cm



C 中谷ミチコ《川の向こう 舟を呼ぶ声》より 2018年
photo: Hayato Wakabayashi

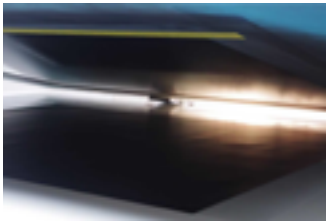
おの こうせき

小野耕石

1979年 岡山県生まれ。
 2004年 東京造形大学絵画専攻版画表現コース卒業
 2006年 東京藝術大学修士課程油画専攻版画科修了

最近の展覧会

2019年 「The ENGINE 遊動される脳ミソ 小野耕石×門田光雅」
 セゾン現代美術館（長野）
 2018年 「モネそれからの100年」 名古屋市美術館、横浜美術館



制作中の新作 スクリーンプリント
 インク蓄積中。

スクリーンプリントを刷り重ね、版画をインクの堆積による立体的表現へと発展させた作家。作品は、蝶の羽のように角度によって色が変わる版画やその変成、時間や観念の蓄積としての立体など、常に新しい発見と共に変化しています。

たきざわ てつや

滝澤徹也

1977年 千葉県生まれ。
 2004年 東京造形大学絵画専攻版画表現コース卒業
 2006年 小川和紙技術継承者育成事業修了

最近の展覧会

2018-19年 「滝澤徹也×出ヶ原和紙展」 西会津国際芸術村(福島県)
 2018-19年 「滝澤徹也展 発酵絵画」 ヤマモ味噌醤油醸造 I.L.A.GALLERY(秋田)
 2016年 個展 滝澤徹也/出ヶ原紙 Vilnius Academy of Arts Gallery, Malūnų 5(トアニア)



《発酵絵画》 DSC_2033
 米粉下地パネル・スクリーンプリント・種麴
 インク（寒天培地・米粉・小麦粉）メディウム
 2018年 52.2 x 78.0 x 4.3cm

和紙職人として研究と制作を重ねながら、芸術活動を続ける作家。対象となる場の歴史や自然と人間の営みの関係をテーマに、自ら漉いた和紙などを使って表現します。これまで刷ったのは、蜘蛛の巣や、発酵につかう麹菌など、この上なく繊細なものから、ガングス川やフィヨルドの岩石まで縦横無尽です。

なかたに みちこ

中谷ミチコ

1981年 三重県生まれ。
 2005年 多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業
 2010年 ドレスデン美術大学卒業
 2012-14年 ドレスデン造形芸術大学
 マイスターシューラーストゥディウム修了

現在、三重県を拠点に活動

最近の主な展示

2019年 「その小さな宇宙に立つ人 In Their Own Little Cosmos」
 三重県立美術館
 2018年 「越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭」（新潟）
 2018年 「DOMANI・明日展」 国立新美術館



- ・ある一つのモノと、そのモノ以外の全てを区切る決定的な場所を探す。
 - ・抜け落ちた空（カラ）の「透明」と、消え去った後に残る「影」のような像を、手触りのある物質としてここに存在させる。
 - ・物語の時間を彫刻にする。
- （制作メモより） *横浜市民ギャラリーあざみ野 2015年HPより引用

はまぐち ようぞう

浜口陽三



魚とレモン 1958年 メゾチント紙 26.5×48.8cm

1909年 和歌山県に生まれる。東京美術学校彫塑科を中退し、1930年に渡仏。1953年 再びパリに渡り、銅版画の新しい技法であるカラーメゾチントを開拓。この技法による静謐な作風が国際的に評価され、1957年には、第1回東京国際版画ビエンナーレにて国立近代美術館賞、第4回サンパウロ・ビエンナーレでは版画大賞を受賞。1960年にはベネチア・ビエンナーレに日本代表作家の一人として参加。パリ、続いてサンフランシスコにアトリエを構え、20世紀を代表する銅版画家として活躍した。

2000年逝去。

2019年の冬には、フランスのサルセル市で開催される国際版画ビエンナーレに招待作家として展示される予定。

★出品作家によるトーク

小野耕石、滝澤徹也、中谷ミチコ × 谷川渥氏（美学者）

日時 - 10月19日（土） 入館料のみ 一般の方もご自由に参加できます。

17:00 ~ 18:00 トーク

18:00 ~ 作家を囲んでレセプション

★基本情報

会期：2019年10月5日（土）～12月22日（日）

開館時間：平日 11:00 ~ 17:00 / 土日祝 10:00 ~ （入館は閉館30分前まで）

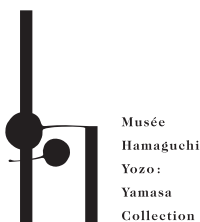
* 第1・3金曜（10/18、11/1、11/15、12/6、12/20）は夜 20:00 まで開館
（入館 19:30 まで）

※10/19（土）はトークのため 16:00 まで。終日、展覧会が見えにくくなります。

会場：ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション一階・地下一階

休館日：月曜日（10/14、11/4は開館）、10/15（火）、11/5（火）

入館料：大人 600円 / 大学・高校生 400円 / 中学生以下 無料



Musée
Hamaguchi
Yozo:
Yamasa
Collection

ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

TEL: 03-3665-0251 FAX: 03-3665-0257

Email: musee@yamasa.com HP: <https://www.yamasa.com/musee/>

アクセス：東京メトロ半蔵門線「水天宮前」3番出口そば / 日比谷線「人形町」徒歩8分 / 首都高速箱崎IC 浜町出口又は清洲橋出口

お問い合わせ先

ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 広報担当：七井順子、下澤希望

TEL. 03-3665-0251 musee@yamasa.com